

竜雲舜虹苑は地域の皆様の心と心をつなぐ虹の懸け橋でありたいと願っています。

信心と傘

六月に入り、梅雨（つゆ）の季節となりました。雨傘（あまがさ）の活躍する季節です。

ある方が、「信心を持つか持たないかということは、朝出かけて行く時に、傘を一本持つて行くか持つて行かないかというようなものだ」とおっしゃいました。旅行に行く時に傘を一本持つて行っても、使うことがなかったら、邪魔なものに感じられますが、もしも旅先で雨に降られたら、この傘一本が、わが身を守ってくれるのです。

信心（宗教）もそのとおりで、人生がうまくいっている時には、あってもなくてもそれほど変わらないように思えますが、人生の危機にさしかかった時に、わが身を守ってくれるのが、「信心の一本の傘」であるということです。

(一) そして、その一本の傘を選ぶなら、番傘のように荷重（におも）になるような傘は、避けた方がいいという事です。宗教もそうです。あまりに厳しい修行がまつた宗教だったら、多くの人々には耐えられないはずがありません。

(二) また、その一本の傘を選ぶなら、できるだけ多くの人々に信頼された老舗（しにせ）の傘を一本選びなさいということ。今の日本には、実に様々な宗教があり、中には怪しげなものもあります。その点、仏教は、二千五百年の歴史がありますし、法然上人のお念仏の教えは、八百四十年余り人々に信仰されて来ました。

(三) そして最も大切なことは、その一本の傘を持ったならば、時々はその傘の点検をなささい、ということ。宗教についていえば、お念仏の信心の傘を頂いたならば、それが間違いない、ご本尊の阿弥陀様の方へ向いているか、時々確認することです。確認できたなら、毎日毎日、その傘の手入れに励んでください。即ち、日々のお念仏を怠らず唱え続けてください、ということ。す。

初めての炊き出し訓練を行って

管理栄養士 原田歩美



5月24日に炊き出し訓練で災害用アルファ化米の「山菜おこわ」と「五目ごはん」を作りました。50食分と書かれた段ボールの箱の中には、米と食材はもちろんしゃもじやパック容器、割りばしに手袋など、必要なものがすべて入っていました。この箱の中に米と食材と8リットルの水を入れるだけで完成しますが、「本当に水を入れるだけでできるの?」と、少し不安になりながら、待つこと60分。ちゃんと出来上がりました。職員の他には、ケアハウスの利用者様も一緒に、出来上がったご飯をパックに入れたり、ラップでおにぎりを作ってくださいました。道具も少なく、やり難い面もありましたが、「非常時にはぜひたくは言われてられん」と頼もしい言葉とともに、約100食分のおにぎり等が出来上がりました。その後の試食では「水だけでこんなに簡単に出来て美味しいなんて」と驚きの声が上がっていました。

また、地震訓練、人命救助の訓練を行いました。職員総出での訓練でしたが今後も定期的に実施していきたいと思えます。



認知症サポーター研修



カナン保育園様慰問



ドッグセラピー様慰問

行事紹介

仏生山小学校5年生訪問



亀鶴公園外出



ステップクラブ様慰問

次回は、七月十四日(金)
お題「便利で安全、福祉用具の選び方」
場所 竜雲舜虹苑 地域交流スペース

「高齢者推進事業について」
介護支援専門員 美濃 洋美



竜雲舜虹苑老人介護支援センターでは毎月、介護の普及に関する活動を企画し、地域の皆様にご参加いただいています。五月は、「生き生き! 体力測定」と題して、舜虹苑デイサービス職員が出張して、自分でできるセルフマッソーや握力や片足立ちなどの体力測定、その他脳トレを取り入れた体操を行いました。一見単純そうに見える動作も、少しずつ複雑化することで生まれる、考える表情と爆笑の数々。皆さんの動きが揃った時には何とも言えない一体感でした。今後も皆様のご参加をお待ちしています。

社会福祉法人竜雲学園
竜雲舜虹苑

特別養護老人ホーム
短期入所サービス
通所介護サービス
認知症型通所サービス
訪問介護サービス
老人介護支援センター
ケアハウス

〒761-8078
高松市仏生山町甲 3100 番地 2
TEL: 087-888-5800
FAX: 087-889-1004

